



たいしよ
大暑

紙面・記事へのご意見・お問い合わせ
06-6633-9066 (平日9時~18時、土曜9時~17時、日祝日休み)
o-dokusha@sankei.co.jp

販売・配達に関するお問い合わせ
06-6633-9357 (平日9時~19時、土日祝日9時~17時)
http://o-sankei-hanbai.com/c/ (平日のみ)

購読のお申し込み
0120-34-3733 (平日9時~19時、土日祝日9時~17時)
http://reader.sankei.co.jp/reader/



がん「5年生存」62%

3ポイント向上 早期診断で結果良好

国立がん研究センターは22日、平成18〜20年にがんと診断された約64万4千人が、5年後に生存している割合を示す「5年生存率」は62・1%だったとする分析結果を発表した。患者が多い主要ながんは大腸が71・1%、胃が64・6%、肝臓が32・6%、肺が31・9%だった。

前回の調査より3・5ポイント向上。多くの部位で早期診断が良好な結果につながる。統計的な基準を満たした東北から九州までの21府県の患者データを分析した。男女別の生存率は、男性が59・1%、女性が66・0%で、女性の方が6・9ポイント高かった。

部位別にみると、男性では前立腺が97・5%と最も生存率が高く、皮膚、甲状腺、ぼうこうと続いた。女性では甲状腺(94・9%)、皮膚、乳房、子宮体部の順だった。センターは、前立腺や乳房など予後の良いがんの患者数が増えたことが、全体の生存率を上げた主要な要因とみている。

逆生存率が高いがんは男女とも膀胱でいずれも7%台。次いで20%台前半の胆のう・胆管で、男性は肺、女性は肝臓が続く。膀胱や胆嚢・胆管は診断時に既に進行している場合が多

がんの進行度を分けて分析したとんが臓器や組織にている早期の生存だった。転移した進行した14%に下がった。

がんの部位別の5年生存率

	男性	女性	
前立腺	97.5	甲状腺	94.9
皮膚	92.2	皮膚	92.5
甲状腺	89.5	乳房	91.1
ぼうこう	78.9	子宮体部	81.1
脳	33.0	多発性骨髄腫	36.3
肺	27.0	肝臓	30.5
胆嚢(たんのう)・胆管	23.9	胆嚢・胆管	21.1

既に進行している場合が多